

図2 平安京内における調査位置

【まとめ】

応仁・文明の乱終息以降も、京都の町衆はさまざまな勢力・権力と結びつき、力強く活動していました。16世紀前半には、京都の各所に「構」と呼ばれる堀や土塁など、自衛のための防御施設が造られました。

今回見つかった堀は、応仁・文明の乱以降に掘られ、そして天文法華の乱が終息していったがって役割を終えた「構」の一つと考えられます。

みつかった堀は南側が内側になり、守るのが南側にあったと考えられます。この場所に当時誰が住んでいたのか、わかっていませんが、堀の規模から大人数を動員できる武家や寺社によって掘られた可能性があります。

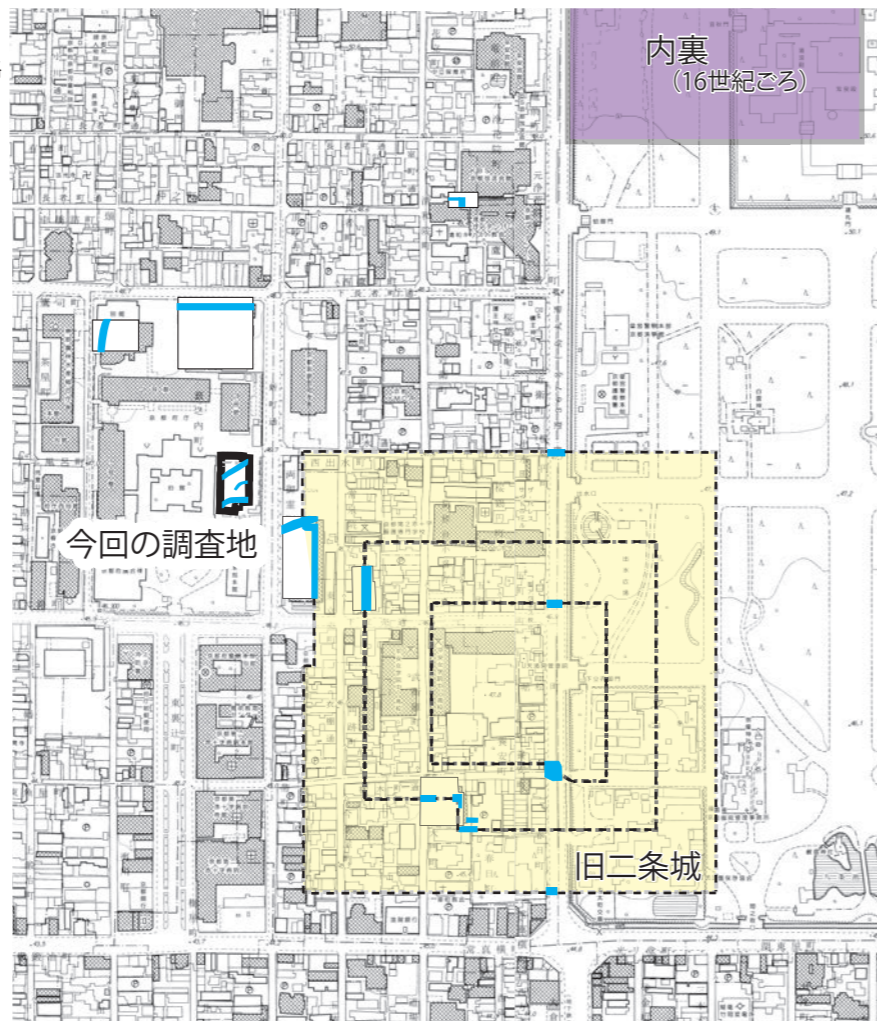


図3 周辺の調査でみつかった堀

(水色が堀)
(馬瀬智光氏作成図に加筆。
『京都市文化財ボックス第31集 天下人の城』2017)

末尾となりますが、発掘調査をおこなうにあたって関係機関ならびに多くの方に格別なご協力を賜りました。記して感謝を申し上げます。

天文法華の乱：天文5年（1536）、勢力を拡大した法華衆が延暦寺と対立し、延暦寺の宗徒らが京都の法華宗寺院を襲撃した事件。

主なできごと

- 応仁元年（1467） 応仁・文明の乱が始まる
- 文明9年（1477） 応仁・文明の乱が終息
- 明応8年（1499） 管領細川氏により京中に堀を普請する下知が下る
- 天文元年（1532） 法華衆らにより山科本願寺焼失
- 天文5年（1536） 法華衆と延暦寺が衝突し天文法華の乱がおこる
- 永禄11年（1568） 織田信長、足利義昭を擁して入京
翌年 旧二条城造営
- 天正10年（1582） 本能寺の変



平安京跡（左京一条三坊三町）

現地説明会資料

調査場所 京都市上京区下立売通新町西入ル藪ノ内町
調査期間 平成30年11月7日～令和2年2月下旬(予定)
調査機関 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター



平成30年度から京都府庁の新行政棟・文化庁移転施設整備事業に伴い、発掘調査を実施しています。

調査地は平安京の近衛大路と左京一条三坊三町に位置します。平安時代には、宮中や京内施設の造営・修理をおこなう修理職の厨師である修理職町があり、以降現在に至るまで人々が集住していました。

今回の調査では、戦国時代の堀などが見つかりました。

堀③ 全景 東から

【調査の概要】

今回の調査では、近世前期の建物や土坑、戦国時代（室町時代後期）の堀が3条、平安時代末期から鎌倉時代初期の道路側溝と推定される溝1条がみつき、平安時代の門の礎石などが出土しました。

戦国時代の堀は、3条とも16世紀前半には掘られ、短期間で埋められています。京都の各所に設けられた防御施設である「構」を構成する堀とみられます。



写真1 調査地全景（近世前期）（北から）



写真2 堀3 全景・断面（西から）

堀3は調査区の南側に位置します。幅約5m、深さ約2mを測ります。東西方向の堀ですが調査地の西側で、南西方向へ向かって湾曲します。

堀を埋める際に投棄されたとみられる、直径30cm以上の自然石がまとまって出土しました。堀3も、堀1と同じように南側から埋められていることから、南側に土塁などの構造物があった可能性があります。

柱列は堀3の南側からみつけられました。布堀りに根石がほぼ等間隔に並べられていること、深さ約1.5mと深く据えられていることから塀や櫓を支える柱の可能性がります。



写真3 柱列全景（西から）

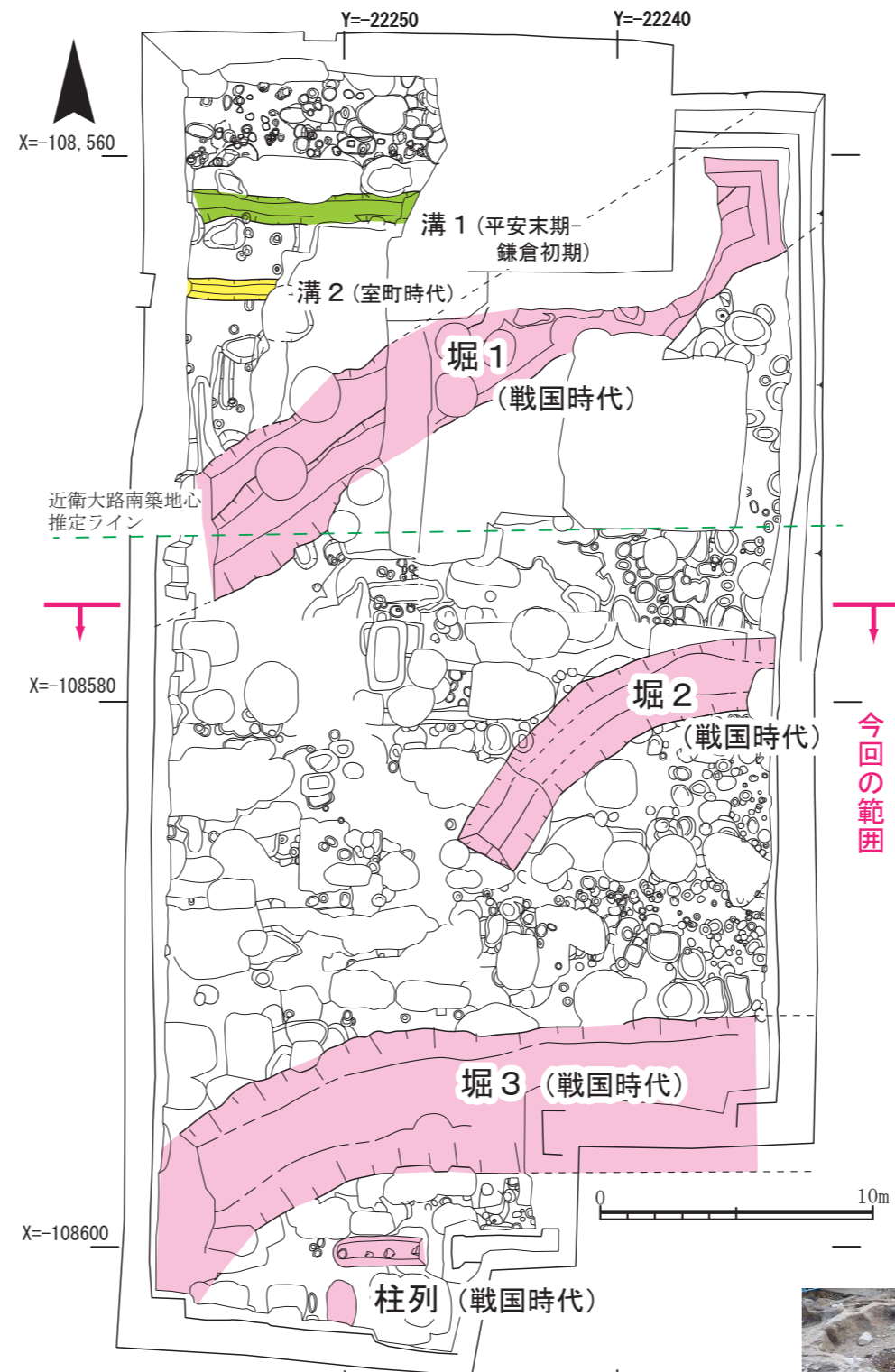


図1 調査地平面図（S=1/250）

堀2は調査区内のほぼ中央に位置し、東から南西へ湾曲して掘られています。幅約2.7m、深さ約1.4mを測ります。

堀の東側は調査地外へ延びますが、西側は調査地の中央付近で掘削を意図的に止めています。



写真5 堀2 全景（北東から）



写真4 堀1 全景（北東から）

堀1は調査区内の北側に位置し、南西から北東へ斜めにのびます。幅約4.5m、深さ約2mを測ります。堀の断面形は逆台形で、南側壁面に対して北側壁面の方が急こう配に掘られており、南北で非対称になっています。

また、堀底も南側が一段低くなっており、再掘削して北側へ掘り広げた可能性があります。埋められた土の様子から多量の土砂によって南側から埋め戻されており、南側に土塁があった可能性があります。